

《宝船》 図案のご説明

隠れ蓑 (かくれみの)

これは元々「天狗」の宝物といわれる。「秀でた才能を得る」また「厄災から身を隠して守ってくれる」という意味もある。

打出の小槌 (うちでのこづち)

願い事をしながら振ると、その願いが叶うと伝えられる小槌。七福神でお馴染みの大黒様が抱えている持ち物。

犀角杯 (さいかくのはい)

犀 (サイ) の角で削って薬に使用。勝利を表す。

珊瑚 (さんご)

装飾品として珍重された。

隠れ笠 (かくれがさ)

「隠れ蓑」同様身に付けると姿が隠れてどこからも見えないと言われている宝物。また、目をよけることから身を守るという意味もある。

分銅 (ふんどう)

「秤」で使われる「おもり」のこと。金銀は「重さ」で取引されるため、分銅をたくさん使う＝金銀がたくさんあるという意味。

七宝 (しっぽう)

丸い形は円満を意味しています。「金、銀、瑠璃 (るり)、玻璃 (はり)、珊瑚 (さんご)、瑪瑙 (めのう)、真珠」(瑠璃はラピスラズリ、玻璃は水晶) の七つの宝を表した絵。

宝錠 (ほうやく)

錠 (やく) とは錠のこと。歳をたくさん持てるようになるよう願いを込めている。

巻物 (まきもの)

「書物」のこと。転じて「知恵を授かる」という意味。

丁子 (チョウジ)

香辛料の一つで、薬・染料・香料・髪付け油を作る原料。大陸から渡ってきたもので、元は「薬」や「香料」として使われたもの。たいへん高価で貴重な品だった。

宝珠 (ほうじゆ)

炎の形をしていて、龍の持ち物とも言われているが、元々は「法具」。思いのままに財宝を出すことができるなど「夢をかなえるもの」と言われている。

